

グローバルセンター

令和元年度 グローバルセンター活動報告

1. グローバルセンターについて

● 3 部門概要

●教員		センター長	畝田谷 桂子		
CPグローバル化 Planning and Network		学生海外派遣 Study Abroad		外国人留学生 International Student	
教授	中谷 純江	教授	畝田谷 桂子	教授	和田 礼子
特任講師	福富 涉	特任准教授	森田 豊子	講師	市島 佑起子
世界展開力事業 Inter-University Exchange Project					
特任准教授	新江 利彦				
特任助教	MARMOLEJO RAFAEL				

2. 令和元年度の活動内容

2-1. 令和元年度グローバルセンター運営委員会

(1) 主な審議事項

A. 教務・教育プログラム運営

大学の世界展開力強化事業／日本語日本文化研修留学生プログラム

Study Japan Program 開設科目と修了要件（前後期）／修了認定（前後期）／協定締結

B. 学生受入・派遣

鹿大「進取の精神」支援基金事業（留学生受入推進事業の募集・選考等）

学生の海外渡航に関する危機管理対応（海外セイフティ・ハンドブック）

協定校からの学生研修受入

C. 雇用・管理

特任教員の補充・雇用継続／平成30年度決算／令和元年度予算

鹿大「進取の精神」支援基金予算／令和元年度・2年度非常勤講師雇用計画／規則の一部改正

(2) 開催日程

\* はメール会議

回数	1*	2	3	4*	5*	6*	7*	8	9*	10*	
日程	平成31年	令和元年						令和2年			
(始)	4月12日			9月17日	10月18日	11月15日	12月18日		2月21日	3月2日	
(至)	4月15日	5月21日	7月16日	9月20日	10月23日	11月18日	12月20日	1月21日	2月26日	3月5日	

## 2-2. 令和元年度グローバルセンター教育関連事業（概要報告）

本節では、グローバルセンターが実施している事業の中から、特に学生教育を中心に概要を報告する。

### (1) 学生海外派遣

#### (1a) 日本人学生の海外派遣実績

- ・「進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）」を継続し、全学の海外研修や派遣留学等の学習機会についてロードマップによって学生に一体的な提示を行い、P-SEG 説明会、海外研修報告会、SNS 等による情報提供や啓発活動を継続し、課外学習で Intensive English を開講し（前後期計217名受講）、TOEFL 模試を実施した。
- ・共通教育および各部局・研究科における海外研修集中講義により258名（短期227名、中期31名）を海外派遣し、そのうち248名（短期217名、中期31名）に経費支援を行った（内訳：鹿大「進取の精神」支援基金事業146名（短期115名、中期31名）、「鹿児島大学学生海外研修支援事業」短期102名）上記258名の他、COVID-19の影響で5研修が中止となり、30名が派遣中止となった。
- ・学術交流協定により協定校に31名派遣留学（内、トビタテ3名）させ、そのうち「鹿児島大学学生海外留学支援事業」により33名に経費支援を行った（上記31名の他 COVID-19の影響で8名が派遣中止となった）。
- ・鹿大「進取の精神」支援基金事業による学生海外派遣事業の長期派遣で5名を海外派遣し、経費支援を行った。同事業全体では、短期115名と中期31名（前掲）、長期5名の合計151名に経費支援を行った。
- ・「鹿児島大学学生海外学会発表支援事業」による海外研究発表を行う学生70名に経費支援を行った。
- ・鹿児島県清華大留学支援奨学金奨学生事業により7名を清華大に派遣留学させた。
- ・「鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業『UCL 稲盛留学生』」候補者を選考したが、UCL の基準を満たせず派遣に至らなかったことを受け、次年度以降本学大学院募集に際し、当該事業の応募枠を設けることとなった。
- ・前掲の各種海外派遣のうち、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣）に採択されたプログラムの参加学生192名（海外研修154名、協定校派遣38名。2018年度採択で2019年度継続分を含む）への経費支援を実施し、次年度のプログラム応募を行った。
- ・姉妹都市豪州パース市が鹿児島市に提案した留学生受入事業について、本学学生5名を5週間給付型支援金付きで派遣する短期留学プログラム「パース市英語イマージョンプログラム PUPILS」を企画し、全学学生を対象に募集選考を行って実施した。

以上の取組の結果、2019年度の学生海外派遣数は332名となった。COVID-19の影響で38名が渡航中止となったにも関わらず、中期計画に掲げた平成26年度実績値264名の1.2倍（316名）を上回り、中期目標を達成した。

#### (1b) 海外留学啓発活動・指導

留学を希望する学生に対する情報提供機会として「派遣留学説明会」「トビタテ！留学 JAPAN 応募説明会」を総計4回開催した（294名参加）。さらに、「トビタテ！留学 JAPAN」

プログラム採択者増に向けた応募者指導を実施し、本年度（11.12期）採択者を19名輩出して第1期～12期採択者総数が69名となり、採用実績のある国立大学80校のうち17位となった。加えて、循環型留学啓発教育では、グローバルランゲージスペースにて留学体験発表と後輩への啓発を目的とする「伝えよう！私の海外体験」を10回（132名参加）、個別留学相談50回（50名参加）を実施した。また、留学帰国生による、学生海外派遣部門 HP の留学体験談サイト「伝えよう！鹿大生の海外体験」への報告と留学情報を記入するファクトシートの掲載も継続して行った。また、海外渡航前の危機管理教育等を目的とした「海外セイフティ・ハンドブック」を作成し、大学ホームページに掲載して危機管理システムを整備し、危機管理教育を充実・強化した。

## (2)日本人・留学生の協働学習

外国人留学生と日本人学生の協働学習を行うグローバルランゲージスペースの活動として、昼休みの活動（外国語 Speaking Lunch Table、（前期延べ902名：英、独、仏、中、韓、西、タイ、後期延べ766名：英、独、仏、中、韓、スウェーデン語）に延べ1668名、週1回のグループ学習「グロスペ外国語」（前期194名：英、独、仏、中、韓、西、タイ語、後期188名：英、独、仏、中、韓、越、インドネシア、トルコ語、マレー語）に382名（延べ3820名）の参加があった。外国語 Speaking Lunch Table およびグロスペ外国語に対して参加者の報告コメントから、両企画とも意義を認める回答が多数得られた。

## (3)外国人留学生受入

### (3a) 外国人留学生受入状況・教育体制

外国人留学生対象“Study Japan Program”では、受講生が多様な科目を履修できるよう開講時間変更等で充実を図り、年間受講者総数は延べ787名に増加した。また、平成29年度に新設された鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム」にて留学生1名、「研究留学生受入プログラム」にて8名を受け入れた。

共通教育改革による必修科目初年次セミナーの学修内容改定を踏まえ、外国人留学生必修科目である日本語・日本事情科目を再構築した。

### (3b) 外国人留学生受入体制の充実

新たに留学生向け学研災付帯海外保険の加入手続き補助を行うなど、外国人留学生をサポートする「留学生受け入れサポートデスク」の充実を図った。また、経済的支援として、鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業の「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム（学部留学生対象）」および「研究留学生受入プログラム」にて9名を支援した。さらに、大学独自の奨学金として「留学生後援会奨学金（14名）」「種村完司奨学金（5名）」、「外国人留学生民間宿舍費助成事業（46名）」を継続して給付した。加えて、新規留学生獲得のため、国内6件の進学説明会及び海外5か国5件の留学フェアに参加した（対応者合計309名）。さらには、国際交流会館1号館での「留学生相談室」設置に向けた居室の改修、国際交流会館チューターへの非常用設備研修を実施するなど、留学生の受入体制支援を多角的に進めた。

(4)国際的な情報発信

本学の情報を英語によって国際発信する機関誌“KU Today”の2019秋号（No.18）および2020春号（No.19）を発行した。No.18の特集は歯学部、No.19の特集は水産学部となった。それぞれ3,500部ずつ発行した。

【大学ホームページ（英語版）KU Today】

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/en/about/newsletter.html>

(5)国際共同教育研究の推進支援

平成30年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業」～米国等との大学間交流形成支援～(タイプA)に「米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム」を企画・応募して採択されている（事業終了年度2022年度）。グローバルセンターは、本事業において複数部局を統括し、全学の国際共同教育研究を推進する役割を存分に果たしている。事業2年度目である2019年度においても学生交流の計画目標を達成し、米国およびアジアの連携大学へ131名の学生を派遣し、82名の学生を受け入れた。また、オンライン国際協働学習(COIL: Collaborative Online International Learning)の数値目標も達成した。

この事業以外にも、「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業」で教員5名（うち2名は「鹿大『進取の精神』支援基金若手研究者支援事業」による支援）、「鹿児島大学若手教員海外語学研修支援事業」で教員1名に派遣支援を行った。

(6)鹿大「進取の精神」支援基金事業

寄附金を原資とする同基金事業の実施報告として、「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 平成30年度事業報告書」を令和元年6月に刊行し、同基金を支援する目的で設立された鹿児島大学「鹿大『進取の精神』支援基金」支援会役員をはじめ関係各団体、企業に贈呈した。また、平成30年度事業報告によって事業の周知を図り、その進め方やグローバルな視点による地域貢献の可能性と今後の課題等について議論し事業改善に資することを目的に、第4回鹿児島大学グローバルセンターシンポジウム「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 平成30年度事業報告と今後の展望」を令和元年7月1日に開催し、学内外から87名が参加した。

以上







